

例題1 A-1-(2)-3) 患者が自己決定できない場合の対処法を説明できる。

インフォームドコンセントについて正しいのはどれか。

- A. 新薬の臨床試験においては必要ない。
- B. 看護師が医師に代わって行ってもよい。
- C. 未成年者の患者では、保護者のみに行えばよい。
- D. 進行癌の場合、病名をまず患者の男性の親族に伝える。
- E. 意識不明の身元不明患者では、医師の判断で救命手術ができる。

例題2 A-1-(3)-4) 医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。

55歳の女性。糖尿病で通院中である。食事療法が続かない。栄養指導を受けてはどうかと勧めたが、患者は「運動もやっているし食事療法は以前にも勉強してよくわかっているのでその必要はない。」と答えた。

医師の対応として適切なのはどれか。

- A. 食事療法がうまくいかない理由を一緒に考える。
- B. 合併症の危険を説明して患者の自覚を促す。
- C. 栄養士による指導の必要性を説明する。
- D. 運動量を増やすように勧める。
- E. 食事療法を再度説明する。

例題3 A-2-(1)-4) 医療の安全性に関する情報(薬害や医療過誤の事例、やってはいけないこと、模範事例等)を共有し、事後に役立つための分析の重要性を説明できる。

救急患者の採血検体を検査部へ持って行くよう指示された人(立っている女性)が、検体を検査技師に手渡す際の写真(カラー表示)を示す。

写真に示された現行の方法について優先的に改善すべき点はどれか。

- A. 検査の項目をシートで説明する。
- B. 検査の項目を口頭で告げ、技師も復唱する。
- C. 患者の氏名を口頭で告げる。
- D. 採血管に患者の氏名を手書きで記入する。
- E. シートのID番号と氏名を検体にも貼付する。



例題4 A-2-(2)-5) 基本的予防策(ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フルプルーフの考え方等)について概説し、実践できる。

視覚障害により独歩困難な患者を病室から診察室へ誘導するのに、適切な方法はどれか。

- A. 介助者が患者の背中を押す。
- B. 介助者が患者の腕を引っ張る。
- C. 介助者が患者の肩に手をまわす。
- D. 介助者が患者に声で指示を出す。
- E. 介助者の腕を患者につかんでもらう。

例題5 A-2-(3)-1) 医療従事者の健康管理の重要性を説明できる。

病院の中で写真（カラー表示）のような標識があった。  
ここで安全性が管理されているのはどれか。

- A. 可燃性物質
- B. 放射性物質
- C. 感染性物質
- D. 遺伝子組換え物質
- E. 強力な磁気を発する物質



例題6 A-3-(2)-1) 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。

65歳の男性。結腸癌と診断し、人工肛門造設術を施行した。術後の回復は順調であったが、自らの予後に不安を感じて、抑うつ状態となっている。

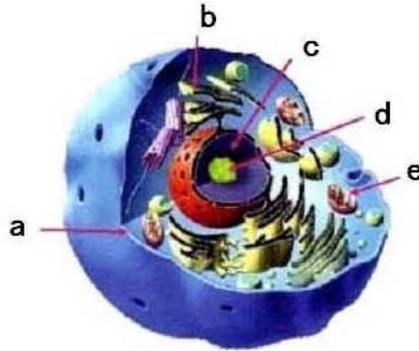
この患者への医師の対応として正しいのはどれか。

- A. 抗うつ薬を投与する。
- B. 心配することはないと言う。
- C. 病室を訪れて頻繁に話を聞く。
- D. 家族に患者を励ますよう依頼する。
- E. 他の患者さんと交わるように励ます。

例題7 B-1-(1)-②-1) 細胞骨格を構成するタンパク質とその機能を概説できる。

細胞の構造を図（カラー表示）に示す。  
環状の DNA が含まれる部位はどれか。

- A. a
- B. b
- C. c
- D. d
- E. e

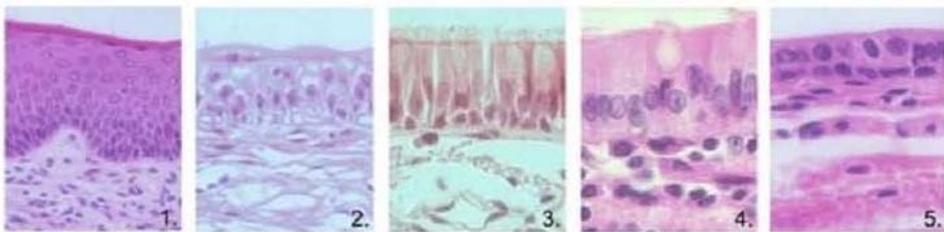


図典情報 本, 図説形, ニューロン

例題8 B-1-(2)-①-1) 上皮組織と腺の構造と機能を説明できる。

膀胱や尿管の内面をおおう上皮はどれか（写真はカラー表示）。

- A. 1
- B. 2
- C. 3
- D. 4
- E. 5



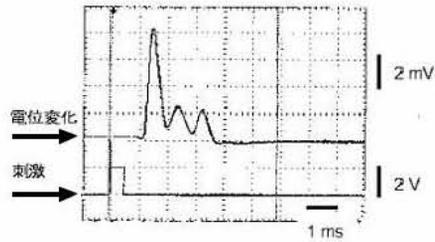
正答 例題7:E 例題8:B

例題9 B-1-(3)-①-b-1) 活動電位の発生機構と伝導を説明できる。

図（白黒表示）のようにカエルの坐骨神経を刺激した。  
この実験からわかるのはどれか。



- A. 神経線維ごとに閾値が異なる。
- B. 神経線維の種類は 3 種類である。
- C. 神経線維ごとに伝導方向が異なる。
- D. 神経線維ごとに伝導速度が異なる。
- E. 太さの異なる神経線維の本数の割合がわかる。



例題10 B-1-(4)-9) 神経管の分化と脳、脊髓、視覚器、平衡聴覚器と自律神経系の形成過程を概説できる。

胎齢 9 週の胎児横断面を図（カラー表示）に示す。  
矢印で示す構造はどれか。

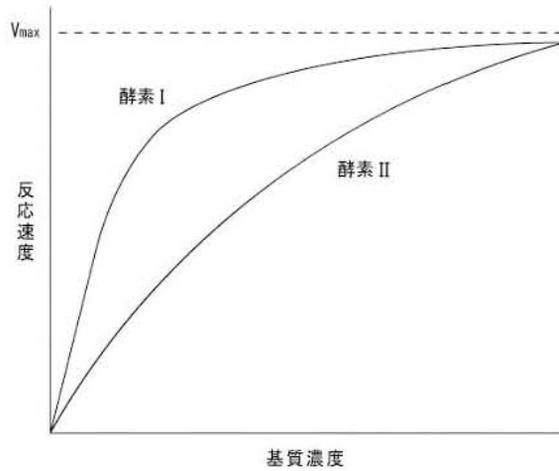
- A. 側脳室
- B. 第 3 脳室
- C. 中脳水道
- D. 第 4 脳室
- E. 中心管



例題11 B-1-(5)-1) 酵素の機能と調節について説明できる。

酵素 I と酵素 II は同じ反応を触媒する。酵素量や反応条件を一定にして基質の濃度を変化させたところ、図（白黒表示）のような曲線が得られた。なお、酵素 I と II は同じ最大速度（ $V_{max}$ ）を示す。

ミカエリス定数（ $K_m$ ）について正しいのはどれか。

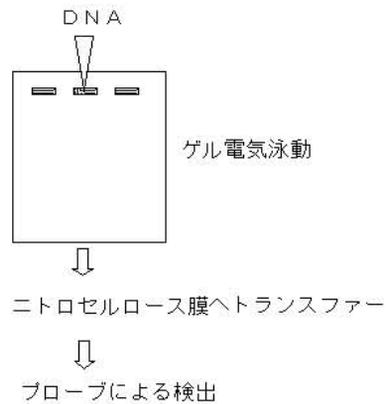


- A. 酵素 I と酵素 II の  $K_m$  は同じである。
- B. 酵素 I の  $K_m$  は酵素 II の  $K_m$  より大きい。
- C. 酵素 I の  $K_m$  は酵素 II の  $K_m$  より小さい。
- D. 酵素 I と酵素 II の  $K_m$  の大小は不明である。
- E. 酵素 I と酵素 II の  $K_m$  の大小は基質濃度によって異なる。

例題12 B-1-(6)-1) 遺伝子と染色体の構造を説明できる。

図（白黒表示）に示す遺伝子解析技術はどれか。

- A. ウェスタンブロット
- B. ノーザンブロット
- C. サザンブロット
- D. シークエンス法
- E. PCR



例題13 B-2-(1)-⑤-2) 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。

患者との接触によって感染する可能性のあるのはどれか。

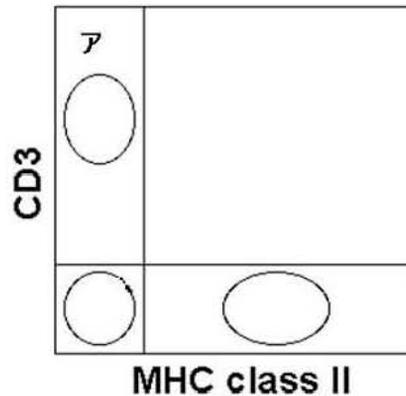
- A. アスペルギルス症
- B. アニサキス症
- C. アメーバ赤痢
- D. クリプトコッカス症
- E. マラリア

例題14 B-2-(2)-①-2) 免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。

ヒト末梢血単核球の CD3 と MHC クラス II の発現をフローサイトメトリーで解析した図（白黒表示）を示す。円および楕円は細胞集団を表す。

区画アに含まれるのはどれか。

- A. 好塩基球
- B. 単球
- C. T 細胞
- D. B 細胞
- E. ナチュラルキラー細胞

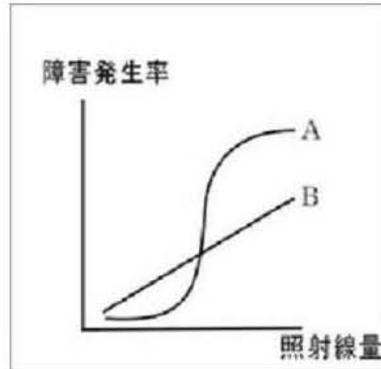


例題15 B-2-(3)-①-2) 放射線の人体への急性効果と晩発効果を説明できる。

放射線の照射線量と障害発生率の関係を図（白黒表示）に示す。

Bのパターンを示す放射線障害はどれか。

- A. 発癌
- B. 不妊
- C. 白内障
- D. 造血障害
- E. 皮膚障害

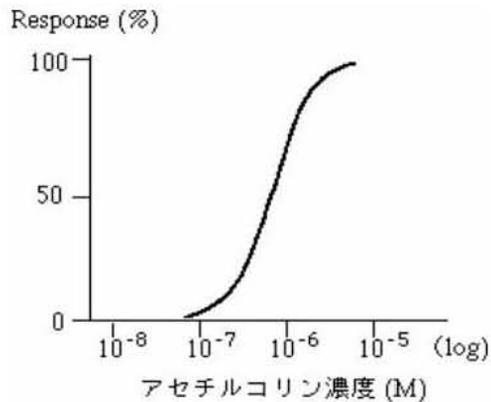


例題16 B-2-(4)-①-1) 薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。

モルモット遊離回腸にアセチルコリンを添加したときの用量反応曲線を図（白黒表示）に示す。

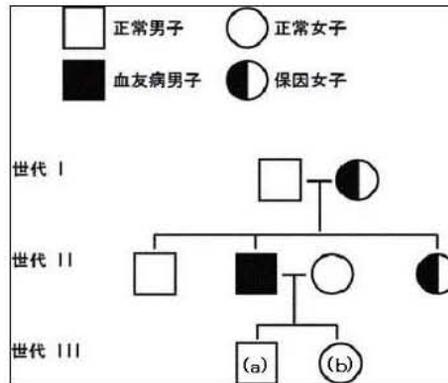
反応曲線を右方に移動させる薬物はどれか。

- A. アトロピン
- B. ネオスチグミン
- C. ノルアドレナリン
- D. プラゾシン
- E. プロプラノロール



例題17 B-3-(1)-2) メンデル遺伝の3つの様式を説明し、代表的な遺伝性疾患を列挙できる。

ある家系における血友病の発症例を図（白黒表示）に示す。  
 図中の第三世代の男性（a）および女性（b）に関する記載で正しいのはどれか。



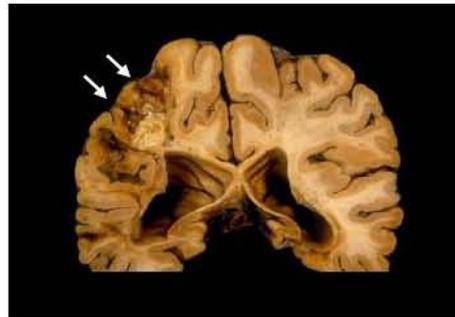
- A. (a) が発症する確率は 50 % である。
- B. (a) の Y 染色体上には、血友病の遺伝子が存在する。
- C. (b) は 100 % 保因者である。
- D. (b) の常染色体上には、血友病の遺伝子が存在する。
- E. 発症する確率は (a) も (b) も等しく 50 % である。

例題18 B-3-(2)-2) 細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化の特徴を説明できる。

右中大脳動脈の血栓性閉塞により生じた病変を写真（カラー表示）に示す。

矢印の部分でみられる病理変化はどれか。

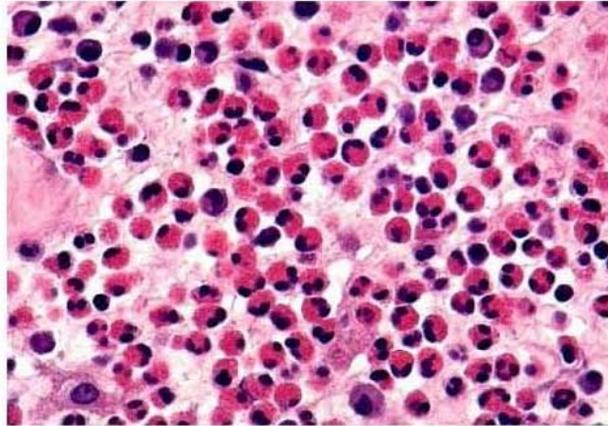
- A. 凝固壊死
- B. 融解壊死
- C. 脂肪変性
- D. 硝子変性
- E. 粘液変性



例題19 B-3-(5)-2) 炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を説明できる。

hematoxyline - eosin 染色標本（カラー表示）に示す炎症性細胞の浸潤を特徴とする疾患はどれか。

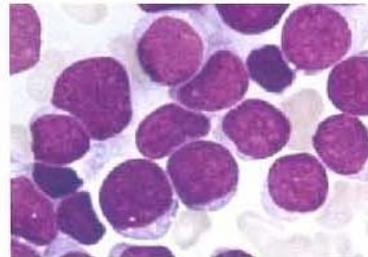
- Ⓐ. 結核
- Ⓑ. 気管支肺炎
- Ⓒ. 急性虫垂炎
- Ⓓ. アレルギー性鼻炎
- Ⓔ. 慢性ウイルス性肝炎



例題20 C-1-(4)-②-1) 急性白血病の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。

5歳の男児。2週前から発熱が続くため来院した。赤血球 210 万、Hb 6.8 g / dL、Ht 23 %、白血球 38,000、血小板 1.0 万。骨髄穿刺液塗抹 Giemsa 染色標本（カラー表示）を示す。考えられるのはどれか。

- Ⓐ. 再生不良性貧血
- Ⓑ. 骨髄異形成症候群
- Ⓒ. 遺伝性球状赤血球症
- Ⓓ. 急性リンパ性白血病
- Ⓔ. 特発性血小板減少性紫斑病



例題21 C-2-(1)-③-2) 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。

27歳の女性。左眼瞼が開けにくいとの主訴で来院した。視力に問題はないが、左瞳孔の散大と左眼球運動障害を認める。来院時の顔写真（カラー表示）を示す。

正しいのはどれか。

- A. 視神経麻痺
- B. 動眼神経麻痺
- C. 三叉神経麻痺
- D. 外転神経麻痺
- E. 顔面神経麻痺



例題22 C-2-(1)-③-2) 脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能を概説できる。

25歳の女性。3日前に右外耳道にビリビリとした痛みを伴う水疱が出現した。今朝、洗顔時に顔面がゆがみ、右眼が閉じにくいことを自覚したため来院した。

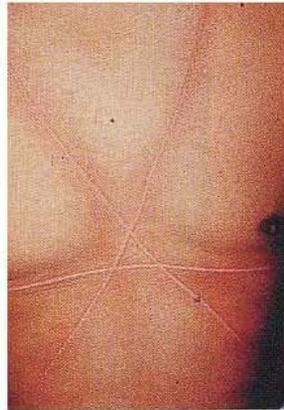
みられるのはどれか。

- A. 右眼の縮瞳
- B. 右口角の挙上
- C. 右眼の外転制限
- D. 右注視方向性眼振
- E. 右側舌前2/3の味覚の低下

例題23 C-3-(2)-1) 皮膚検査法(硝子圧法、皮膚描記法、ニコルスキー現象、ツアング試験、皮膚温測定法、発汗検査法、皮脂測定法、光線テスト)を概説できる。

写真(カラー表示)に示す検査はどれか。

- A. Wood (ウッド) 灯試験
- B. 硝子圧法
- C. 貼布試験 (パッチテスト)
- D. 単刺試験 (プリックテスト)
- E. 皮膚描記法



出典情報 検査法と解釈—  
皮膚科と皮膚科  
皮膚科と皮膚科  
皮膚科と皮膚科  
皮膚科と皮膚科

例題24 C-4-(4)-5) 関節炎の病因と治療を説明できる。

65歳の女性。5年前から両膝関節痛が出現、徐々に悪化している。3日前に右膝関節に副腎皮質ステロイド薬の関節内注射を施行され、その夜から右膝の腫脹、熱感および安静時の疼痛をきたし、急速に悪化した。来院時の右膝関節の外観と穿刺した関節液を写真(カラー表示)に示す。

考えられるのはどれか。

- A. 化膿性関節炎
- B. 関節リウマチ
- C. 特発性骨壊死
- D. 変形性関節症
- E. 滑膜炎骨軟骨腫症



例題25 C-5-(4)-②-1) 安定狭心症(労作性、冠攣縮性)の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。

50歳の男性。3日前から毎日のように睡眠中、明け方に数分間持続する胸痛を訴えて来院した。身長165cm、体重80kg。24時間記録心電計を装着したところ胸痛時に図(白黒表示)のような心電図が記録された。

適切な治療薬はどれか。

- A. ACE阻害薬
- B.  $\beta$ 遮断薬
- C. アスピリン
- D. カルシウム拮抗薬
- E. 利尿薬

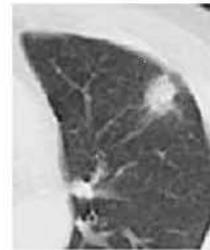


例題26 C-6-(4)-⑥-1) 原発性肺癌の分類、症候、診断と治療を説明できる。

65歳の男性。健診で胸部異常陰影(左図:白黒表示)を指摘され来院した。胸部CT(右図:白黒表示)を示す。

考えられるのはどれか。

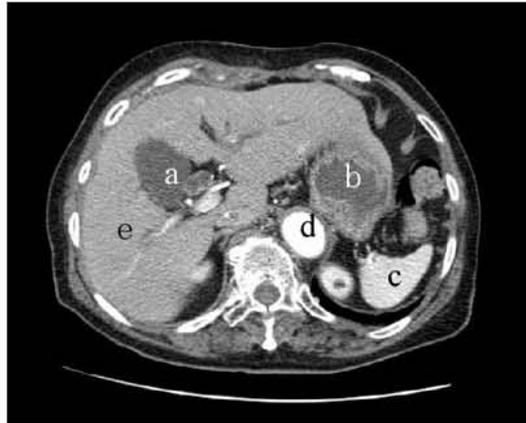
- A. じん肺
- B. 肺癌
- C. 肺結核
- D. 肺膿瘍
- E. 無気肺



例題27 C-7-(1)-1) 各消化器官の位置、形態と血管分布を図示できる。

腹部造影 CT (白黒表示) を示す。  
胆嚢はどれか。

- A. a
- B. b
- C. c
- D. d
- E. e

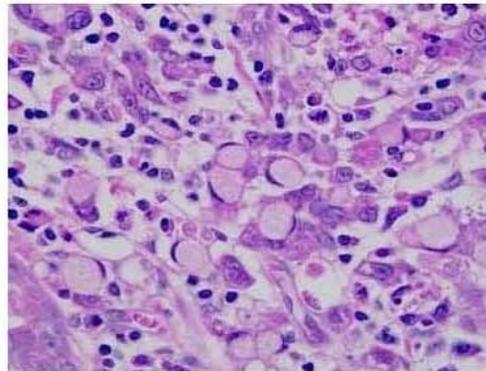


例題28 C-7-(4)-②-1) 胃癌の疫学、病理、症候、肉眼分類と進行度分類を説明できる。

35 歳の女性。食欲不振と体重減少を主訴に来院した。胃内視鏡的生検の組織の hematoxyline - eosin 染色標本 (カラー表示) を示す。

組織学的診断はどれか。

- A. 平滑筋肉腫
- B. 印環細胞癌
- C. 扁平上皮癌
- D. カルチノイド
- E. 悪性リンパ腫

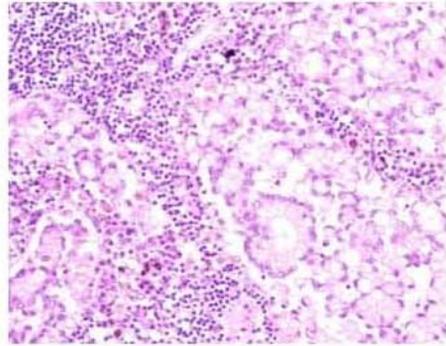


例題29 C-7-(4)-②-2) 胃癌の診断法を列挙し、所見とその意義を説明できる。

60歳の男性。左鎖骨上窩リンパ節の腫大が認められた。リンパ節生検組織の hematoxyline - eosin 染色標本（カラー表示）を示す。

考えられるのはどれか。

- A. Hodgkin（ホジキン）リンパ腫
- B. サルコイドーシス
- C. 壊死性リンパ節炎
- D. 胃癌の転移
- E. 結核

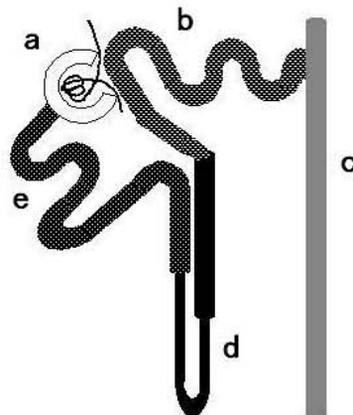


例題30 C-8-(1)-3) 腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。

腎ネフロンの模式図（白黒表示）を示す。

a ~ e の部位の機能で正しいのはどれか。

- A. アルブミンは a でほとんどろ過される。
- B. ブドウ糖の再吸収は主に b で行われる。
- C. 水分の再吸収量が最も多いのは c である。
- D. d 周辺の間質の浸透圧は高張である。
- E. バンプレニンが作用するのは主に e である。



例題31 C-9-(4)-①-2) 前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。

70歳の男性。2年前から排尿困難と尿失禁とが続いていた。突然排尿ができなくなり来院した。血液学所見：赤血球 350 万、Hb 9.0 g / dL。血液生化学所見：クレアチニン 1.6 mg / dL、Na 135 mEq / L、Cl 98 mEq / L、K 5.4 mEq / L。

最初に行う処置はどれか。

- A. 輸液
- B. 輸血
- C. 膀胱穿刺
- D. 利尿薬投与
- E. 尿道カテーテル留置

例題32 C-10-(3)-4) 正常分娩の経過を説明できる。

30歳の初産婦。妊娠 39 週 6 日、陣痛が発来して入院した。陣痛室で経過をみていたが、自然破水した。内診所見では子宮口全開大、先進部は児頭で骨盤出口部にある。大泉門が先進し、右前方に触れる。

破水時の所見はどれか。

- A. 後頭位である。
- B. 後頭部に産瘤を認める。
- C. 先進部は固定していない。
- D. 分娩第 3 期に入っている。
- E. 適時破水である。

例題33 C-11-(4)-2) 乳癌の危険因子、症候、診断、治療と予後を説明できる。

60歳の女性。乳頭異常分泌と腫瘍を主訴に来院した。右乳房に境界不鮮明な直径2cmの腫瘍があり、同部を圧迫すると血性の乳頭異常分泌がある。

考えられるのはどれか。

- Ⓐ. 乳癌
- Ⓑ. 乳腺症
- Ⓒ. 乳腺炎
- Ⓓ. 葉状腫瘍
- Ⓔ. 乳腺線維腺腫

例題34 C-12-(4)-②-3) 甲状腺機能低下症の症候、診断と治療を説明できる。

42歳の女性。元来暑がりであったが、今年は夏になっても長袖を着用し、動作が鈍くぼんやりした様子である。びまん性の甲状腺腫を認める。

この患者でみられる血液生化学検査所見はどれか。

- Ⓐ. 総コレステロール低下
- Ⓑ. CK 低下
- Ⓒ. TSH 上昇
- Ⓓ. FT<sub>3</sub> 上昇
- Ⓔ. FT<sub>4</sub> 正常

例題35 C-15-(3)-4) アルコール依存症の病態、診断と合併症を説明できる。

47歳の男性。長年の飲酒歴がある。最近では酒量が増え、朝から飲酒するようになった。2日前から悪心と嘔吐が続き、吐血したため緊急入院した。入院後3日目から手指に振戦がみられ、不眠、不安および焦燥感が出現した。

この患者に予想されるのはどれか。

- A. 罪業妄想
- B. 誇大妄想
- C. 病的酩酊
- D. 対話性幻聴
- E. 小動物幻視

例題36 D-1-(4)-①-2) 麻疹の症候と診断を説明できる。

4歳の男児。38℃台の発熱が3日間続いた後、口腔粘膜に写真（カラー表示）に示す所見を認めた。その4日後に全身の発疹が出現した。

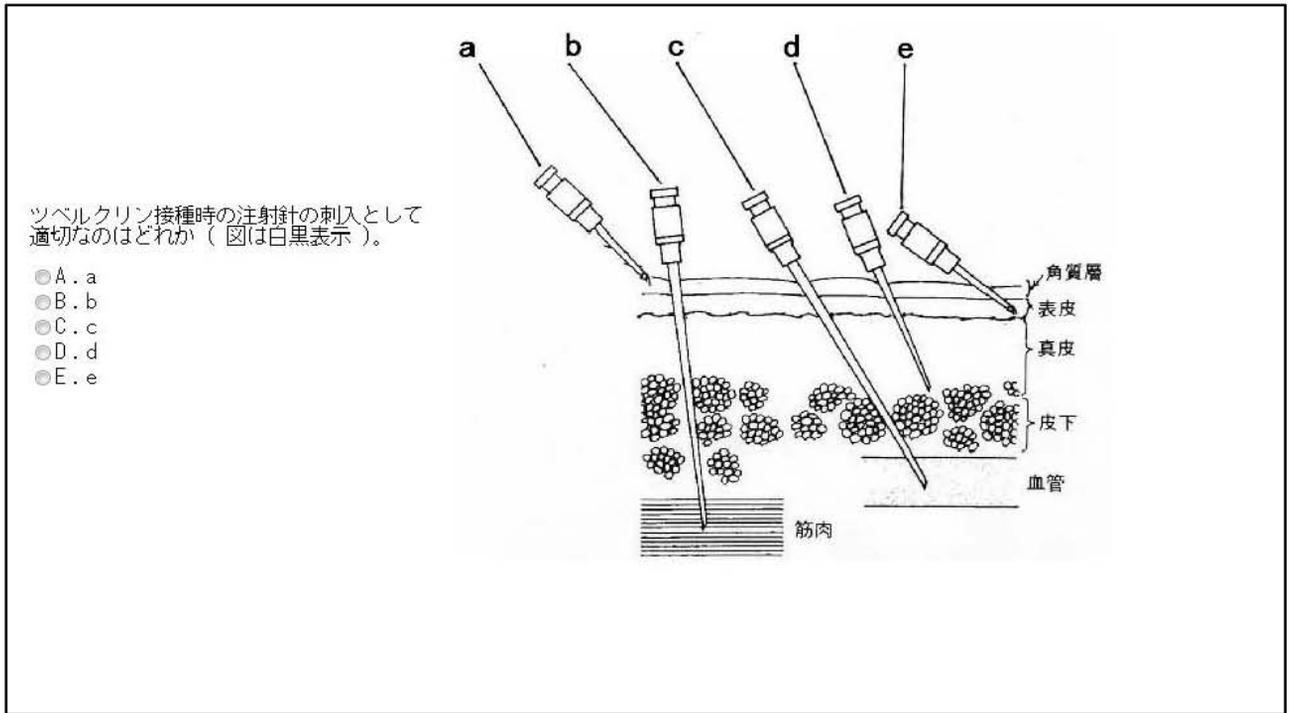
最も考えられるのはどれか。

- A. 風疹
- B. 麻疹
- C. 水痘
- D. 伝染性紅斑
- E. アフタ性口内炎

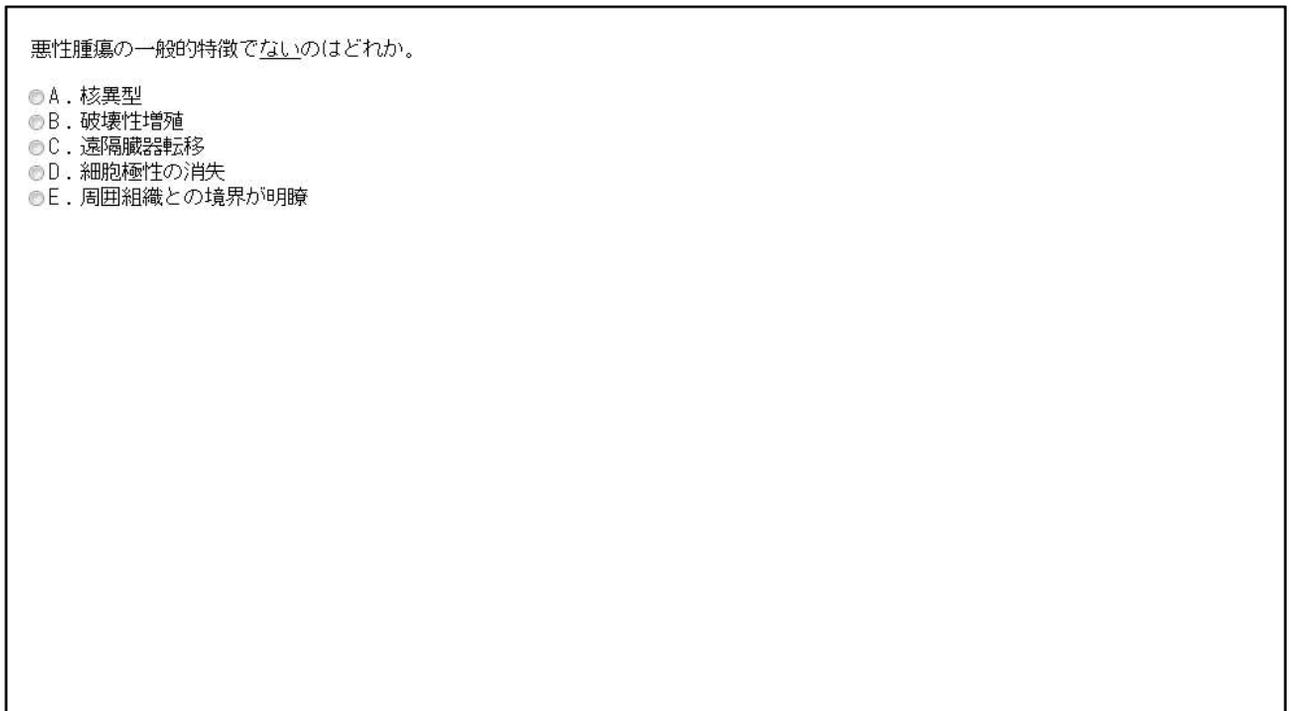


※典拠: URL: nihon.jp/

例題37 D-1-(4)-②-3) 結核の病因、症候、診断、治療と予防を説明できる。



例題38 D-2-(1)-1) 腫瘍の定義を説明できる。



例題39 D-2-(2)-1) 腫瘍発生に関わる遺伝的要因と外的因子を概説できる。

患者から「私は10年間ずっと喫煙してきましたから、今、喫煙を止めても肺癌になる危険性は変わりませんか。」と質問された。

禁煙後20年間の肺癌になる危険性について、医師の回答として適切なのはどれか。

- A. 危険性はなくなります。
- B. 危険性は徐々に減少します。
- C. 危険性はすぐに減少します。
- D. 禁煙しても危険性は変わりません。
- E. 禁煙直後はかえって危険性が増加します。

例題40 D-2-(5)-7) 腫瘍における緩和療法を概説できる。

84歳の男性。末期の消化器癌により余命は3か月と診断されている。認知症があり、全身に持続性の激しい疼痛を生じていて、「死にたい」としきりに訴えている。

最も優先される対応はどれか。

- A. リビングウィルの確認
- B. できる限りの延命措置
- C. 疼痛対策
- D. 根治手術
- E. 安楽死

例題41 D-3-(3)-③-3) 皮膚筋炎・多発性筋炎の症候、診断と治療を説明できる。

49歳の女性。発熱と下肢の脱力を主訴に来院した。手背と肘に皮疹を認める（写真はカラー表示）。考えられるのはどれか。

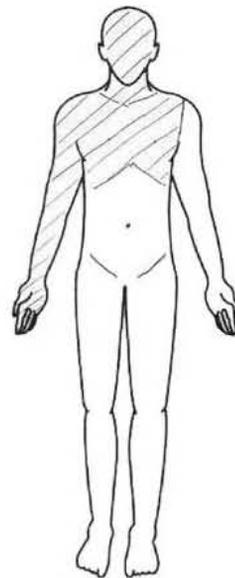
- A. 皮膚筋炎
- B. 関節リウマチ
- C. 全身性エリテマトーデス
- D. Behçet（ベーチェット）病
- E. Sjögren（シェーグレン）症候群



例題42 D-4-(3)-③-1) 熱傷面積(9の法則)と深(達)度から熱傷の重傷度を説明できる。

図（白黒表示）の斜線部分にⅡ度熱傷を認める。背部には熱傷を認めない。熱傷面積はどれか。

- A. 9 %
- B. 18 %
- C. 27 %
- D. 36 %
- E. 45 %



例題43 D-6-3) 高齢者における病態・症候・治療の特異性を説明できる。

85歳の男性。3日前から食欲がなく表情がうつろになり、排尿量も減少したため来院した。身体所見では舌の乾燥、頰脈および呼吸数増加を認める。

まず考えられる病態はどれか。

- A. 脱水
- B. 貧血
- C. 心不全
- D. 膀胱炎
- E. 認知症

例題44 D-7-5) 植物状態と脳死の違いを説明できる。

10歳の男児。遊具の隙間に頭が挟まり、動かなくなった。救助後、病院に搬送したが、心肺停止状態であった。蘇生処置により心拍動と自発呼吸は再開したが、意識が戻らないまま経過した。(いれんを繰り返し、誤嚥性肺炎を併発して6か月後に死亡した。

この患者について正しいのはどれか。

- A. 蘇生後は植物状態となった。
- B. 蘇生後は脳幹反射は消失した。
- C. 心肺停止から蘇生後は脳死となった。
- D. 蘇生後の患者は深昏睡のまま経過した。
- E. 蘇生後は瞳孔が固定し、動かなくなった。

例題45 D-8-1) 突然死と事故死を説明できる。

48歳の男性。自宅近くの路上で倒れているのを発見され、救急車で搬送された。到着時、心肺停止状態で、後頭部に手拳大の挫創とアルコール臭を認めたと。蘇生処置を行ったが死亡した。

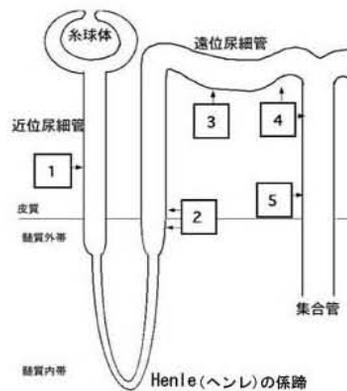
担当医師が直ちに行うべき対応として適切なのはどれか。

- A. 所轄警察署に届ける。
- B. 病理解剖を依頼する。
- C. 法理解剖を依頼する。
- D. 死亡診断書を作成する。
- E. 死体検案書を作成する。

例題46 E-2-(1)-8) 利尿薬の薬理作用を説明できる。

ネフロンの模式図（白黒表示）を示す。  
フロセミドの作用する部位はどれか。

- A. 1
- B. 2
- C. 3
- D. 4
- E. 5



例題47 E-2-(2)-6) 生化学的検査項目を列挙し目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。

食事の影響を受けやすい血液生化学検査はどれか。

- A. 尿酸
- B. 総蛋白
- C. ナトリウム
- D. クレアチニン
- E. トリグリセリド

例題48 E-2-(3)-②-3) 主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。

72歳の男性。上行結腸に悪性腫瘍が認められ、右半結腸摘出術と回腸横行結腸吻合術が施行された。そろそろ食事を再開しようと考えている。

最も適切な質問はどれか。

- A. 「のどがかわきますか。」
- B. 「おなかはずぎましたか。」
- C. 「いつから食事を始めたいですか。」
- D. 「おしっこはでていますか。」
- E. 「おならはでましたか。」

例題49 E-2-(5)-2) 補液・経静脈栄養と経腸栄養の適応、方法と合併症を説明できる。

21歳の女性。半月前から全身倦怠感と口渇が続いていた。本日午後、昏睡状態となり、救急搬送された。尿ケトン体(+)。血液生化学所見：血糖 700 mg / dL、Na 130 mEq / L、K 5.0 mEq / L、Cl 100 mEq / L。動脈血 pH 6.98。

最初にインスリンとともに用いる最も適切な輸液はどれか。

- Ⓐ. 生理食塩水
- Ⓑ. 高カロリー液
- Ⓒ. 注射用蒸留水
- Ⓓ. 5% ブドウ糖液
- Ⓔ. 5% キシリトール液

例題50 E-2-(10)-3) 血液製剤の種類と適応を説明できる。

28歳の男性。オートバイで走行中、大型トラックと衝突して搬送された。身長 170 cm、体重 65 kg。意識は清明である。下肢の受傷部位から出血しており、推定出血量は 1,500 mL である。

優先的に静脈内投与する必要があるのはどれか。

- Ⓐ. ヒト全血
- Ⓑ. 赤血球濃厚液
- Ⓒ. 濃厚血小板
- Ⓓ. 新鮮凍結血漿
- Ⓔ. アルブミン製剤

例題51 E-2-(11)-1) リハビリテーションの概念と適応を説明できる。

50歳の男性。右利き。3か月前に脳梗塞を発症して入院した。左片麻痺を認めるが、失認や失行はない。現在は短下肢装具と杖を使用し、300mは連続歩行が可能である。日常生活動作はほぼ自立している。

この患者の社会復帰計画として適切なのはどれか。

- A. 自宅でさらにリハビリテーションを続けてから復職を考える。
- B. 装具なしで歩行可能になるまで入院訓練する。
- C. 移動手段としての車椅子の訓練を開始する。
- D. リハビリテーション病院に移る。
- E. 早期の復職を考える。

例題52 E-2-(13)-2) 癌性疼痛コントロールの適応と問題点を説明できる。

54歳の男性。余命3か月と診断された進行胃癌である。イレウスによる嘔吐と腹痛があり、骨転移による痛みを一日中訴えている。「苦しくて耐えられない。楽にしてほしい。」と懇願された。

適切な対応はどれか。

- A. 麻薬を積極的に使用する。
- B. 家族に訴えるように勧める。
- C. 抗癌薬を積極的に処方する。
- D. イレウスの外科的治療を行う。
- E. 痛みの機序について詳しく説明する。

例題53 E-3-(5)-③-1) 胸部診察で確認すべき項目を列挙し、視診、触診、打診と聴診ができる。

心臓の聴診上、I 音と同時に開始し II 音まで続く雑音を聴取した。  
この心雑音はどれか。

- A. 連続性雑音
- B. 収縮中期雑音
- C. 全収縮期雑音
- D. 収縮後期雑音
- E. 拡張早期雑音

例題54 F-1-3) 環境と健康・疾病との関係(環境と適応、主体環境系、病因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全)を概説できる。

船倉タンク内に貯留した海水をくみ出していた作業員が倒れた。様子を見に行った作業員も続いて倒れた。作業場に異臭はなかった。

考えられるのはどれか。

- A. 熱中症
- B. 酸素欠乏症
- C. 硫化水素中毒
- D. 有機溶剤中毒
- E. 一酸化炭素中毒

例題55 F-2-2) へき地および離島における地域医療の現状と課題について説明できる。

卒後 7 年目の医師が人口 7,000 人のへき地に赴任した。医師は 1 人しかいない。高齢化率は 32 % で、在宅死も日常的にみられ、地域包括ケアが必要とされている。

この地域で保健医療福祉活動を行うにあたって適切でないのはどれか。

- A. 住民への健康教育
- B. 地域統計資料の分析
- C. 地域福祉資源の活用
- D. ホスピス病棟の設置
- E. 近隣医療機関との連携

例題56 F-3-4) 疫学概念と疫学の諸指標について説明できる。

あるコホート研究で「喫煙者は非喫煙者に比べ肺癌死亡のリスクは約 12 倍高い。」との結果が得られた（表は白黒表示）。

この疫学指標はどれか。

- A. 相対危険度
- B. 寄与危険度
- C. 対千人年死亡率
- D. 絶対危険度減少率
- E. 治療に要する人数

喫煙と肺癌のコホート調査結果

	非喫煙者	喫煙者	合計
曝露人年	30,214	196,180	226,394
肺癌死亡	2	166	168

例題57 F-4-6) 喫煙と疾病の関係と禁煙指導を説明できる。

42歳の男性。1か月前から咳嗽と息切れがするため来院した。身長160cm、体重65kg。血圧156/94mmHg。喫煙は1日20本。飲酒はビールを1日1本。運動量は1週間の歩数調査で1日平均4,500歩である。胸部診察、胸部エックス線撮影および喀痰細胞診検査では異常を認めない。

最も優先して行うことはどれか。

- Ⓐ 節酒の指導
- Ⓑ 禁煙の指導
- Ⓒ 毎日30分の早足歩行の指導
- Ⓓ 鎮咳薬の投与
- Ⓔ 降圧薬の投与

例題58 F-5-2) 医療保険と公費医療や介護保険を説明できる。

78歳の男性。妻、娘夫婦と同居。脳梗塞を発症し寝たきり状態となったが、急性期を過ぎ病院を退院し自宅療養となった。現在ADLは保たれているが、外出には車椅子を必要としている。同居者である妻から訪問診療を依頼された。

今後、考慮する点で最も重要なのはどれか。

- Ⓐ 生活保護の申請
- Ⓑ 介護保険の申請
- Ⓒ 傷病手当金の給付申請
- Ⓓ 特定疾患（難病）の指定
- Ⓔ 介護老人福祉施設への入所

例題59 F-6-1) 情報管理の原則(情報公開、プライバシー保護、取り扱い倫理、セキュリティ)を説明できる。

入院中の患者の会社の上司と名乗る人から電話があり、患者の病状についての問い合わせがあった。事前に患者から「見舞い客が来た場合は部屋に案内して欲しい。」との意思を確認していた。

適切な対応はどれか。

- A. 患者の病状を説明する。
- B. 患者の病名だけを伝える。
- C. 「患者の許諾を得ていないため、答えられない。」と告げる。
- D. 退院予定日を伝える。
- E. 「問い合わせの人は入院していない。」と答える。

正答 例題59:C

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題60-1

連問 (1/2)

テーマ：生体を構成する主要なタンパク質の構造と機能  
ビタミン C 欠乏で構造に異常をきたすタンパク質はどれか。

- A. アクチン
- B. エラスチン
- C. ケラチン
- D. コラーゲン
- E. トロポニン
- F. ヘモグロビン
- G. ミオグロビン
- H. ミオシン

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題60-2

連問 (2/2)

テーマ：生体を構成する主要なタンパク質の構造と機能  
ATPase 活性を示す構造タンパク質はどれか。

- A. アクチン
- B. エラスチン
- C. ケラチン
- D. コラーゲン
- E. トロポニン
- F. ヘモグロビン
- G. ミオグロビン
- H. ミオシン

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題61-1

### 連問 (1/2)

テーマ：血中に見いだされるファーストメッセンジャーとその作用

このメッセンジャーの受容体は細胞膜に存在しチロシンキナーゼ活性をもつ。細胞内の IRS と Shc をリン酸化し、さらに SH ドメインをもつ Grb2、SHP-2 および PI3 キナーゼと結合し多彩な作用機序を示す。

このファーストメッセンジャーはどれか。

- Ⓐ. アドレナリン
- Ⓑ. インスリン
- Ⓒ. オキシトシン
- Ⓓ. ガストリン
- Ⓔ. 上皮増殖因子 ( EGF )
- Ⓕ. トリヨードサイロニン (  $T_3$  )
- Ⓖ. ヒスタミン
- Ⓗ. プロゲステロン
- Ⓘ. プロスタグランジン

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題61-2

### 連問 (2/2)

テーマ：血中に見いだされるファーストメッセンジャーとその作用

このメッセンジャーの受容体は細胞の核内に存在し、特定の遺伝子の発現を調節する。このメッセンジャーには成長に対する作用、糖質代謝と脂質代謝に対する作用、および自律神経と心血管系に対する作用など多彩な作用がみられる。

このファーストメッセンジャーはどれか。

- Ⓐ. アドレナリン
- Ⓑ. インスリン
- Ⓒ. オキシトシン
- Ⓓ. ガストリン
- Ⓔ. 上皮増殖因子 ( EGF )
- Ⓕ. トリヨードサイロニン (  $T_3$  )
- Ⓖ. ヒスタミン
- Ⓗ. プロゲステロン
- Ⓘ. プロスタグランジン

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題62-1

連問 (1/2)

テーマ：タンパク質の分解機構

細胞内のプロテオソームで、分解するタンパク質に目印を付加する酵素はどれか。

- Ⓐ. H<sup>+</sup> 輸送性 ATP アーゼ
- Ⓑ. グルコシダーゼ
- Ⓒ. セリンプロテアーゼ
- Ⓓ. ヌクレアーゼ
- Ⓔ. ホスファターゼ
- Ⓕ. メタロプロテアーゼ
- Ⓖ. ユビキチンリガーゼ
- Ⓗ. リパーゼ

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題62-2

連問 (2/2)

テーマ：タンパク質の分解機構

細胞内のリソソームを強い酸性に保つために機能する酵素はどれか。

- Ⓐ. H<sup>+</sup> 輸送性 ATP アーゼ
- Ⓑ. グルコシダーゼ
- Ⓒ. セリンプロテアーゼ
- Ⓓ. ヌクレアーゼ
- Ⓔ. ホスファターゼ
- Ⓕ. メタロプロテアーゼ
- Ⓖ. ユビキチンリガーゼ
- Ⓗ. リパーゼ

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題63-1

連問 (1/2)

テーマ：心臓の圧容積関係

56歳の男性。健康診断で初めて高血圧を指摘されて来院した。脈拍 72 / 分、整。血圧 160 / 110 mmHg。胸部エックス線撮影で心陰影の拡大はない。

この患者があてはまるのは図（白黒表示）の①～⑨のどれか。

- A. ①
- B. ②
- C. ③
- D. ④
- E. ⑤
- F. ⑥
- G. ⑦
- H. ⑧
- I. ⑨

後負荷	高値	①	②	③
	正常	④	⑤	⑥
	低値	⑦	⑧	⑨
		低値	正常	高値
		前負荷		

## 病態EMI(多選択肢連問形式) 例題63-2

連問 (2/2)

テーマ：心臓の圧容積関係

56歳の女性。顔面のむくみと排尿回数の減少を主訴に来院した。体重は1か月前は52kgであったが、現在は56kgである。脈拍78 / 分、整。血圧140 / 80 mmHg。

この患者があてはまるのは図（白黒表示）の①～⑨のどれか。

- A. ①
- B. ②
- C. ③
- D. ④
- E. ⑤
- F. ⑥
- G. ⑦
- H. ⑧
- I. ⑨

後負荷	高値	①	②	③
	正常	④	⑤	⑥
	低値	⑦	⑧	⑨
		低値	正常	高値
		前負荷		

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題64-1

### 連問 (1/2)

テーマ：(ないれん)

32歳の女性。5日前から38℃台の発熱と頭痛が出現した。昨日から会話にちぐはぐな応答が認められ、今朝突然に全身性(ないれん)を生じたため救急車で搬入された。意識は浅眠で、見当識障害がある。項部硬直とKernig(ケルニツヒ)徴候を認める。運動麻痺はない。脳脊髄液所見：細胞数115/μL(リンパ球90%、多核球10%)、蛋白定量85mg/dL(基準15~45)、糖定量63mg/dL(同時に測定した血糖96mg/dL)。白血球8,300。CRP 0.1mg/dL。頭部MRI T<sub>2</sub>強調像(白黒表示)を示す。



考えられるのはどれか。

- Ⓐ. 肝性脳症
- Ⓑ. 急性化膿性髄膜炎
- Ⓒ. くも膜下出血
- Ⓓ. 真菌性髄膜炎
- Ⓔ. 多発性硬化症
- Ⓕ. 単純ヘルペス脳炎
- Ⓖ. 低血糖症
- Ⓗ. てんかん
- Ⓘ. 尿毒症
- Ⓙ. 脳梗塞
- Ⓚ. 脳腫瘍
- Ⓛ. 副甲状腺機能低下症

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題64-2

### 連問 (2/2)

テーマ：(ないれん)

40歳の男性。1年前から四肢遠位部のしびれ感と筋のこわばりを自覚していた。今朝突然に全身性(ないれん)を生じたため救急車で搬送された。(ないれん)は既に消失しており、意識は清明である。運動麻痺はない。Chvostek(クボステック)徴候陽性、Trousseau(トルーソー)徴候陽性。血液生化学所見：Alb 4.0g/dL、UN 16mg/dL、Cr 0.8mg/dL、Na 140mEq/L、K 4.1mEq/L、Ca 6.8mg/dL、P 5.7mg/dL。

考えられるのはどれか。

- Ⓐ. 肝性脳症
- Ⓑ. 急性化膿性髄膜炎
- Ⓒ. くも膜下出血
- Ⓓ. 真菌性髄膜炎
- Ⓔ. 多発性硬化症
- Ⓕ. 単純ヘルペス脳炎
- Ⓖ. 低血糖症
- Ⓗ. てんかん
- Ⓘ. 尿毒症
- Ⓙ. 脳梗塞
- Ⓚ. 脳腫瘍
- Ⓛ. 副甲状腺機能低下症

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題65-1

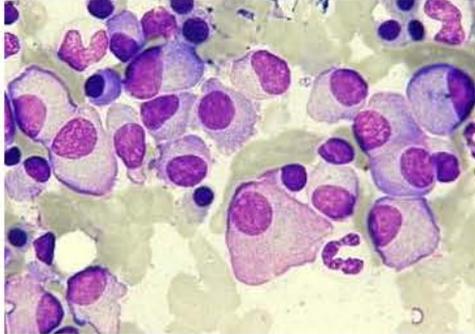
### 連問 (1/2)

テーマ：貧血

70歳の男性。腰痛と全身倦怠感を主訴に来院した。家人に半年前から顔色が悪いと言われている。眼瞼結膜に貧血を認める。血液学所見：赤血球 350万、Hb 10.7 g/dL、Ht 32%、白血球 4,600 (桿状核好中球 10%、分葉核好中球 49%、好酸球 1%、単球 2%、リンパ球 38%)、血小板 23万。血液生化学所見：総蛋白 10.7 g/dL、アルブミン 4.1 g/dL。骨髓血塗抹 May - Giemsa 染色標本 (カラー表示) を示す。

考えられるのはどれか。

- A. 急性骨髄性白血病
- B. 急性リンパ性白血病
- C. 骨髄異形成症候群
- D. 再生不良性貧血
- E. 腎性貧血
- F. 多発性骨髄腫
- G. 鉄欠乏性貧血
- H. 慢性骨髄性白血病
- I. 慢性リンパ性白血病
- J. 溶血性貧血



## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題65-2

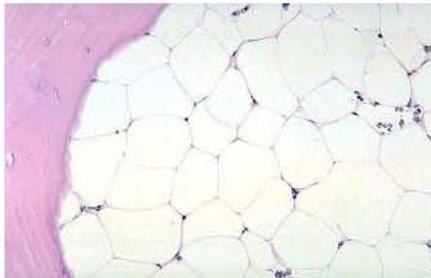
### 連問 (2/2)

テーマ：貧血

32歳の女性。3日前からの鼻出血を主訴に来院した。2か月前から全身倦怠感を自覚している。皮膚は蒼白で紫斑と点状出血を認める。血液学所見：赤血球 215万、Hb 7.0 g/dL、Ht 20%、白血球 1,500 (桿状核好中球 1%、分葉核好中球 15%、好酸球 1%、単球 2%、リンパ球 81%)、血小板 0.8万。血液生化学所見：総蛋白 8.1 g/dL、アルブミン 4.1 g/dL。骨髓生検 hematoxylin - eosin 染色標本 (カラー表示) を示す。

考えられるのはどれか。

- A. 急性骨髄性白血病
- B. 急性リンパ性白血病
- C. 骨髄異形成症候群
- D. 再生不良性貧血
- E. 腎性貧血
- F. 多発性骨髄腫
- G. 鉄欠乏性貧血
- H. 慢性骨髄性白血病
- I. 慢性リンパ性白血病
- J. 溶血性貧血



出典情報 URL: <https://path.jcrn.dnagpp.com/jcrn/other/docs/other2.html>

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題66-1

### 連問 (1/2)

テーマ：運動麻痺・筋力低下

25歳の女性。3日前からの下肢の脱力感を主訴に来院した。7か月前に急に右眼の視力低下が起こり数日で回復した。3か月前に左前側胸部のしびれ感を自覚したが、3日後には軽快している。両下肢の腱反射の亢進を認め、左 Babinski (バビンスキー) 徴候は陽性である。

考えられるのはどれか。

- Ⓐ. Guillain-Barré (ギラン・バレー) 症候群
- Ⓑ. 筋萎縮性側索硬化症
- Ⓒ. 骨髄炎
- Ⓓ. 周期性四肢麻痺
- Ⓔ. 重症筋無力症
- Ⓕ. 進行性筋ジストロフィー
- Ⓖ. 多発筋炎
- Ⓗ. 多発性硬化症
- Ⓘ. 脳梗塞
- Ⓙ. 脳腫瘍

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題66-2

### 連問 (2/2)

テーマ：運動麻痺・筋力低下

57歳の男性。仕事中突然に左の上下肢の脱力を感じ、救急車で搬送された。左の中枢性顔面神経麻痺と左上下肢の不全麻痺を認める。心電図では心房細動を認め、来院時の頭部単純 CT は正常である。

考えられるのはどれか。

- Ⓐ. Guillain-Barré (ギラン・バレー) 症候群
- Ⓑ. 筋萎縮性側索硬化症
- Ⓒ. 骨髄炎
- Ⓓ. 周期性四肢麻痺
- Ⓔ. 重症筋無力症
- Ⓕ. 進行性筋ジストロフィー
- Ⓖ. 多発筋炎
- Ⓗ. 多発性硬化症
- Ⓘ. 脳梗塞
- Ⓙ. 脳腫瘍

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題67-1

### 連問 (1/2)

テーマ：尿量・排尿の異常

70歳の男性。2年前から排尿困難を自覚していたが放置していた。夜間に1時間おきにトイレに行くようになったため来院した。体温 36.2℃。直腸診にて鶏卵大で弾性軟の前立腺を触知する。尿沈査と血糖値は正常で、血清CRPは陰性である。

考えられるのはどれか。

- Ⓐ 急性腎盂腎炎
- Ⓑ 急性前立腺炎
- Ⓒ 急性尿道炎
- Ⓓ 急性膀胱炎
- Ⓔ 心因性頻尿
- Ⓕ 神経因性膀胱
- Ⓖ 腎結石
- Ⓗ 前立腺癌
- Ⓘ 前立腺肥大症
- Ⓙ 糖尿病
- Ⓚ 尿管結石
- Ⓛ 尿崩症
- Ⓜ 慢性腎不全

## 症候EMI(多選択肢連問形式) 例題67-2

### 連問 (2/2)

テーマ：尿量・排尿の異常

73歳の男性。7年前から蛋白尿を指摘されていたが放置していた。1か月前から尿量の減少を自覚し、全身性の浮腫が生じたために来院した。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部超音波検査では両側性の腎萎縮を認める。

考えられるのはどれか。

- Ⓐ 急性腎盂腎炎
- Ⓑ 急性前立腺炎
- Ⓒ 急性尿道炎
- Ⓓ 急性膀胱炎
- Ⓔ 心因性頻尿
- Ⓕ 神経因性膀胱
- Ⓖ 腎結石
- Ⓗ 前立腺癌
- Ⓘ 前立腺肥大症
- Ⓙ 糖尿病
- Ⓚ 尿管結石
- Ⓛ 尿崩症
- Ⓜ 慢性腎不全

## 順次解答4連問形式 例題68-1

### 連問 (1/4)

24歳の女性。6か月前から体重が6kg減り、2か月前から動悸と手のふるえを認めるようになり来院した。医療面接として重要でないのはどれか。

- A. 常用薬はありますか。
- B. 月経は正常ですか。
- C. のどが渴きますか。
- D. 食欲はありますか。
- E. 頭痛はありますか。

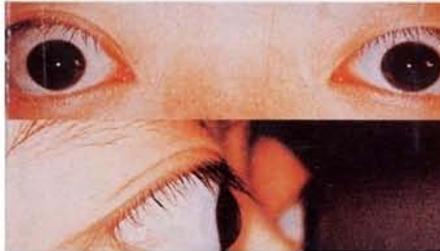
## 順次解答4連問形式 例題68-2

### 連問 (2/4)

24歳の女性。6か月前から体重が6kg減り、2か月前から動悸と手指振戦を認めたので来院した。口渇はあるが、多尿と夜間尿はない。食欲は旺盛でよく食べるが、やせてきている。稀発月経となっており月経血量も少ない。常用薬はない。身長158cm、体重42kg、体温37℃、脈拍124/分、整、血圧132/54mmHg。眼の写真（カラー表示）を示す。

身体診察で重要なのはどれか。

- A. 頸部リンパ節腫脹
- B. 甲状腺部血管雑音
- C. うぶ毛の増生
- D. 下腿浮腫
- E. さじ状爪



正面

側面

## 順次解答4連問形式 例題68-3

### 連問 (3/4)

24歳の女性。6か月前からの6kg体重減少、動悸および手指振戦を主訴に来院した。口渇があるが、多尿と夜間尿はない。月経は稀発過少気味である。食欲旺盛でよく食べるが、やせてきている。身長158cm、体重42kg、体温37℃。脈拍124/分、整。血圧132/54mmHg。眼球突出がある。皮膚は温潤している。甲状腺はびまん性に腫大しており血管雑音を聴取する。血液生化学所見：総コレステロール112mg/dL、AST65IU/L、ALT78IU/L、ALP360IU/L(基準260以下)、TSH<0.01μIU/mL(基準0.34~3.5)、FT<sub>4</sub>4.8ng/dL(基準0.7~1.7)

次に行う検査はどれか。

- A. マイクロゾームテスト
- B. TSH レセプター抗体測定
- C. 甲状腺超音波検査
- D. 眼窩MRI
- E. <sup>123</sup>I - 摂取率測定

## 順次解答4連問形式 例題68-4

### 連問 (4/4)

24歳の女性。6か月前からの6kg体重減少、動悸および手指振戦を主訴に来院した。月経は稀発過少気味である。食欲は亢進している。身長158cm、体重42kg、体温37℃。脈拍124/分、整。血圧132/54mmHg。眼球突出がある。甲状腺はびまん性に腫大している。総コレステロール112mg/dL、AST65IU/L、ALT78IU/L、ALP360IU/L(基準260以下)、TSH<0.01μIU/mL(基準0.34~3.5)、FT<sub>4</sub>4.8ng/dL(基準0.7~1.7)、TSHレセプター抗体67%(基準10以下)。甲状腺超音波検査で甲状腺はびまん性に腫大し血流亢進を認める。

この患者でFT<sub>4</sub>が高値となる機序はどれか。

- A. TSHレセプター抗体による甲状腺の持続的刺激
- B. 甲状腺濾胞の破壊によるホルモンの漏出
- C. 抗T<sub>4</sub>抗体の存在による測定上の干渉
- D. FT<sub>4</sub>からFT<sub>3</sub>への脱ヨードの異常
- E. TSH受容体の遺伝子異常

## 順次解答4連問形式 例題69-1

### 連問 (1/4)

27歳の女性。上腹部痛、ふらつき、および全身倦怠感を訴えて来院した。1か月前から上腹部痛があったが、市販の胃薬を内服して様子を見ていた。昨日から痛みが増強し、ふらつきも強くなった。

医療面接として重要性の低いのはどれか。

- Ⓐ 熱は出ていますか。
- Ⓑ 昨日は何を食べましたか。
- Ⓒ どのような便が出ましたか。
- Ⓓ 妊娠の可能性はありますか。
- Ⓔ 胃薬以外に常用薬はありますか。

## 順次解答4連問形式 例題69-2

### 連問 (2/4)

27歳の女性。上腹部痛、ふらつき、および全身倦怠感を訴えて来院した。1か月前から上腹部痛があったが、市販の胃薬を内服して様子を見ていた。昨日から痛みが増強し、ふらつきも強くなった。今朝の便は「黒くドロっとした便」で、3日前にもあった。発熱はなく、妊娠の可能性ない。関節痛があり鎮痛薬を常用していた。身長158 cm、体重46 kg、体温36.0℃、脈拍100/分、血圧96/60 mmHg。眼瞼結膜は蒼白だが眼球結膜の黄染はない。

身体診察で予想される所見はどれか。

- Ⓐ 肝臓の腫大
- Ⓑ 腸雑音の消失
- Ⓒ 心窩部の圧痛
- Ⓓ 下腹部の反跳痛
- Ⓔ Murphy（マーフィー）徴候

## 順次解答4連問形式 例題69-3

### 連問 (3/4)

27歳の女性。上腹部痛、ふらつき、および全身倦怠感を訴えて来院した。1か月前から上腹部痛があり、市販の胃薬を内服して様子を見ていた。昨日から痛みが増強し、ふらつきも強くなった。今朝の便はタール便で、同様の便が3日前にもあった。関節痛のためにNSAIDsを常用していた。身長158 cm、体重46 kg。体温36.0℃。脈拍100/分、整。血圧96/60 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は平坦で腸雑音はやや亢進し、心窩部に圧痛があるが、反跳痛は認めない。肝・脾は触知しない。血液所見：赤血球280万、Hb 8.0 g/dL、Ht 28%、白血球7,800、血小板18万。

まず行う検査はどれか。

- A. 腹部単純CT
- B. 腹部超音波検査
- C. 下部消化管造影
- D. 出血シンチグラフィ
- E. 上部消化管内視鏡検査

## 順次解答4連問形式 例題69-4

### 連問 (4/4)

27歳の女性。上腹部痛、ふらつき、および全身倦怠感を訴えて来院した。1か月前から上腹部痛があり、市販の胃薬を内服して様子を見ていた。昨日から痛みが増強し、ふらつきも強くなった。今朝の便はタール便で、同様の便が3日前にもあった。NSAIDsを常用している。身長158 cm、体重46 kg。体温36.0℃。脈拍100/分、整。血圧96/60 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は平坦で腸雑音はやや亢進し、心窩部に圧痛があるが、反跳痛は認めない。肝・脾は触知しない。赤血球280万、Hb 8.0 g/dL、Ht 28%、白血球7,800、血小板18万。

上部消化管内視鏡写真（カラー表示）を示す。

この患者でNSAIDsが写真のような病変を引き起こした機序はどれか。



- A. PGE<sub>2</sub>産生の低下
- B. TNF- $\alpha$ 産生の増加
- C. 血小板凝集の抑制
- D. アポトーシスの誘導
- E. ブラジキニン作用の増強

## 順次解答4連問形式 例題70-1

### 連問 (1/4)

44 歳の女性。6 か月前から階段の昇降時や坂道を上るときに息切れを感じ、次第に強くなってきた。2 か月前から動悸と疲労感が出現するようになり、顔色が青白いと家族にいわれて来院した。

医療面接として重要でない質問はどれか。

- A. 咳や痰が出やすいか。
- B. 生理の量が増えているか。
- C. 下肢がむくむことはないか。
- D. 喉が渇きやすいことはないか。
- E. 歯肉から出血しやすいか。

## 順次解答4連問形式 例題70-2

### 連問 (2/4)

44 歳の女性。6 か月前から労作時の息切れ、動悸および疲労感が出現し、増悪したため来院した。咳や痰はないが、下肢がときどきむくむ。歯肉からの出血に気がついたことはない。偏食はなく、喫煙歴もない。6 か月前から生理が不規則になり、月経 2 日目と 3 日目の月経血量が多くなっている。

診られる可能性が高いのはどれか。

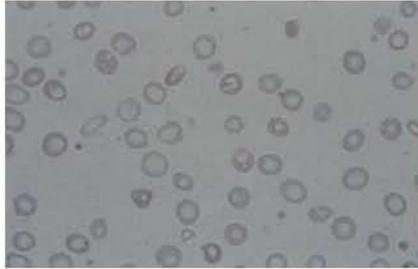
- A. 皮膚点状出血
- B. 頸静脈コマ音
- C. 頸部リンパ節腫脹
- D. 脾腫
- E. 深部感覚異常

## 順次解答4連問形式 例題70-3

### 連問 (3/4)

44歳の女性。6か月前から労作時の息切れ、動悸および疲労感が出現し、増悪したため来院した。半年前から月経の量が多くなっている。身長155cm、体重49kg。体温36.2℃。血圧118/66mmHg。顔面は蒼白で、眼瞼結膜に貧血を認める。頸静脈コマ音と収縮期心雑音を聴取する。腹部には異常所見を認めない。血液所見：赤血球349万、Hb6.9g/dL、Ht22.4%、MCV64.1fL、MCHC30.8%、白血球4,000、血小板26.9万。血液生化学所見：総コレステロール132mg/dL、AST8IU/L、ALT7IU/L。末梢血塗末Wright染色標本（カラー表示）を示す。

診断のために必要な検査はどれか。



- Ⓐ. セルロプラスミン
- Ⓑ. ハプトグロビン
- Ⓒ. ビタミン B<sub>12</sub>
- Ⓓ. フェリチン
- Ⓔ. 補体価

## 順次解答4連問形式 例題70-4

### 連問 (4/4)

44歳の女性。6か月前から労作時の息切れ、動悸および疲労感が出現し、増悪したため来院した。半年前から月経の量が多くなっている。身長155cm、体重49kg。血圧118/66mmHg。顔面蒼白、眼瞼結膜貧血様。頸静脈コマ音と収縮期心雑音を聴取する。赤血球349万、Hb6.9g/dL、Ht22.4%、MCV64.1fL、MCHC30.8%、白血球4,000、血小板26.9万。末梢血液塗末標本では赤血球大小不同と非薄赤血球が目立つ。血清フェリチン0.5ng/dL（基準4.0～64.2）、総コレステロール132mg/dL、AST8IU/L、ALT7IU/L、Na142mEq/L、K3.8mEq/L、Fe24μg/dL。

この患者で血清鉄が低値となった機序はどれか。

- Ⓐ. 鉄の吸収障害
- Ⓑ. 鉄の利用能減少
- Ⓒ. 鉄の還元能低下
- Ⓓ. 鉄の体内貯蔵量減少
- Ⓔ. 鉄の血清中輸送能低下